

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

昨日の3日は、秋の祝日の一つ「文化の日」だった。文化の日が制定されたのは昭和23年。その2年前、11月3日に新憲法が制定さ

れたことを記念して定められた。「文化の日」という名称からは想像できないほど、意外な事実もあることから、「文化の日」を「明治の日」に変えようという動きもある。

幕について考えてみるのでもいいのかもしれない。政府は10月28日、物価高に対応した総合経済対策を臨時閣議で決定、国の補正予算で一般会計で29兆1000億円を投じ電気・ガス・ガソリンと灯油代

ミッチーの愛称で親しまれた故渡辺美智雄氏は「大幅賃上げ、時間短縮、年金は上げ、医療費は無料、教科書も無料、学校の先生は増やせ、道路や橋は

が心配している事も事実だ。渡辺さんが蔵相(現財務相)時代に残した「予算は有限、欲望は無限。財政再建というのは心の再建にほかならない」との名言がある。全ての議員に、胸

にあるこの意味だ。昭和を代表する民宿・旅館などの宿形式は貴重で歴史的な意味を持つ価値があるはずだ。「建築再生学」という

減少が加速し、用を足さなくなった既存の建物。価値を高めるための豊かな生活環境の創造を期待したい。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)

何事にも「心の再建」が大切だ

はないだろ
うか。

コロナ感

の家計負担の負担軽減策を発表した。主な財源は赤字国債との説明だ。現役の財務事務次官が月刊誌「文芸春秋」に、「このままでは国家財政は破綻する」と題して起稿した事を思

ついでに長生きさせろ。」「さらに」そんなものがワンセットでできるわけがない。財源がなくて仕事できるわけがない」と。言い回し

染防止対策の緩和に伴って観光産業が改めて注目されている。禅の言葉「明珠在掌(みよたまがてのひら)にあり」。明珠とは曇りのない珠玉のこと。価値ある宝は、遠くで無く、自分の手の中



10月末に訪れた岩岳リゾート。人が生み出す発想が素敵だ